

# 景観アドバイザー制度の成果 事例③ 「亀甲橋」

- 昭和8年に改修された亀甲橋は、現在、塗替工事中。
- 塗替工事に先立ち、峡東建設事務所で景観検討を実施。
- 市民参加のワークショップ3回を含め、景観アドバイザーを10回派遣。
- 歴史や市民の想いに配慮した色彩を採用した。



【H22.9.29 第3回ワークショップの実施状況】

山梨日日新聞 2011年(平成23年)9月8日 木曜日

山梨市のシンボルに―「亀甲橋」お色直し  
濃赤色 80年前の姿再現へ

「懐かしい」と住民名所化期待

「原点復帰」で山梨市の新たなシンボルに。市内の笛吹川に架かる亀甲橋で往時の景観を再現しようと、約80年前に使われた濃赤色を塗り替える改修工事が進んでいる。伝統カラーを復活させることで橋が刻んだ歩みを色で伝えていくとともに、市の新たなシンボルとする狙いだ。

県東建設事務所によると、亀甲橋は1878(明治11)年に笛吹川の両岸をつなぐ橋として完成し、現在の橋は1933(昭和8)年に改修された。3代目は全長約102mの鋼鉄製で、3連アーチが特徴。3代目は元々は濃赤色に塗装されたが、何回かにわたって塗り替えるうちに、現在の銀色に変わったという。

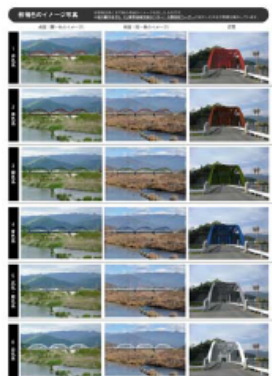
同事務所道路課の五味勇樹さんは「橋は市の景観百選などにも選ばれているため、アングレックなどを経て、どのような景観づくりが良いのか検討を重ねたと話す。昨夏、市

は1933(昭和8)年に改修された。3代目は全長約102mの鋼鉄製で、3連アーチが特徴。3代目は元々は濃赤色に塗装されたが、何回かにわたって塗り替えるうちに、現在の銀色に変わったという。

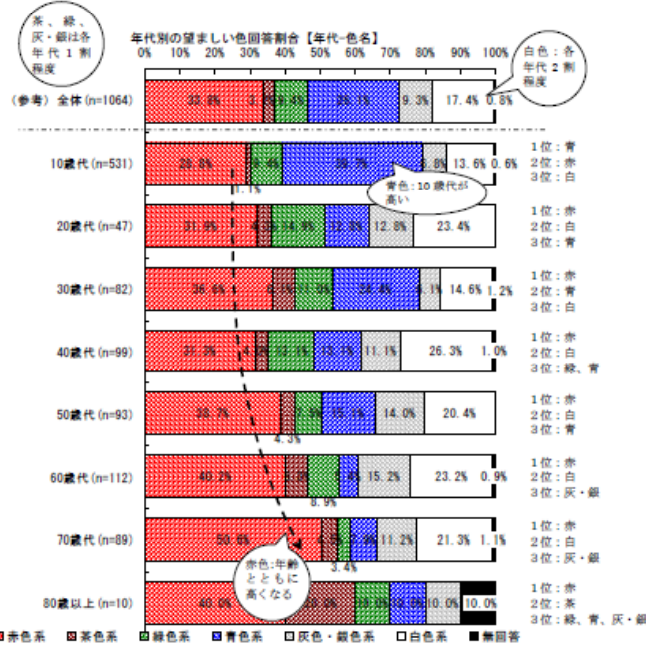
同事務所道路課の五味勇樹さんは「橋は市の景観百選などにも選ばれているため、アングレックなどを経て、どのような景観づくりが良いのか検討を重ねたと話す。昨夏、市民約千人にアングレック調査で、銀線、赤茶色などのうち、最適な色合いを尋ねたところ、五使われた色で、周囲の景観

民約千人にアングレック調査で、銀線、赤茶色などのうち、最適な色合いを尋ねたところ、五使われた色で、周囲の景観

【H23.9.8 山梨日日新聞 朝刊掲載】



色彩選定アンケートで提示した候補6色のイメージ



【市民への色彩選定アンケートの結果】

## 山梨市のシンボルとして (シンボル性の向上、原点復帰) ～くさかべの歴史や市民の想いを未来につなげていく～

《ワークショップでの主な意見》

- 地域の中でも「桜木会」や「くさかべ通り」など昔の名前に愛着が残っている。昔の風景を再現する赤色がよい。
- 印象に残るように、めがね橋を目立たせる・際立たせる色がよい。
- 亀甲橋のように昔のものを残すことで、若い人にも伝えていけるし、周囲の家なども景観に配慮するようになるのではないかと。
- この場所の亀甲橋に相応しい色を検討してほしい。(山梨市)

候補色の塗装見本 (第3回ワークショップ)

昭和28年当時の色 (モノクロ写真から再現)

【景観アドバイザー制度を利用したコンセプトの整理結果】

にも合う濃赤色を推す意見が、多かった。「五味さん」という。塗替費用は約7200万円、来年3月に完成する。学生時代に濃赤色の亀甲橋を眺めて過したという市区長会長の斎藤政尚さん(76)は「昔の色に再現することを聞

き、懐かしい思い出が、勝地差出の磯と笛吹川、赤く映える亀甲橋がそろうと素晴らしい眺めを見せたいと、赤い亀甲橋が名所となつてくれば、下期待を定めている。